平成２１年度疫学倫理審査対象研究課題の概要

研　究　課　題	県内に流行するウイルス性胃腸炎感染症の解明研究 －より効率的なウイルス検出法(マルチプレックス PCR 法)の新規確立・導入－	
事　業　期　間	H.21～22	
研究目的・内容	多種類のウイルス遺伝子を同時に増幅可能とされるマルチプレックス PCR 法の導入を検討し確立することで、健康被害発生時の病因物質検索をより充実させる。さらに検出したウイルス遺伝子の塩基配列をダイレクトシークエンス法により決定し分子疫学的解析を行い、流行実態の解明につなげる。	
期待される効果	○ノロウイルス以外の胃腸炎ウイルスの流行状況を、遺伝子検査レベルで確認することにより、これまでウイルス陰性として見過ごされてきた患者発生が認識可能となる。 ○特に食中毒や不明感染症などの集団発生事例でノロウイルス以外の原因ウイルスの検索に要する時間が短くなり、より迅速な検査対応が可能となる。 ○県内でのウイルス性胃腸炎感染症の実態を解明することで、予防や感染拡大防止に役立てる。 ○小児における胃腸炎ウイルスの流行をより確実に把握することにより、食中毒や不明感染症などの健康危機管理対策の一環とする。	
倫理的配慮事項	○医師が、研究の趣旨を説明し、同意書を得た上で、検体（糞便または肛門拭い液）を採取する。 ○研究者は、既に連結不可能匿名化された情報のみを用いる	
	意　　見	対　　応
主 な 意 見 等	なし	

研　究　課　題	健康長寿延伸に向けた福井県民の心の健康づくりの研究 －「笑い」を取り入れたストレス対処能力の向上をめざす－
事　業　期　間	H.22
研究目的・内容	県民のストレスの内容や対処方法の実態を探り、ストレスの対処にどのような「笑い」が生活の中で実践され、またどのような笑いが求められているのかを調査、解明する（21 年度）。その上で「笑い」の媒体を使って効果を検証し、ストレス対処に向けた効果的な「笑い」を提案する。（22 年度）
期待される効果	○ストレス対処への笑いの効果を検証することで、福井県民に適した笑いの行政施策の推進に結び付ける。

倫理的配慮事項	○研究者が、研究の趣旨を説明し、同意書を得た上で、介入調査（ストレスの付加および笑いの前後で唾液中のクロモグラニンＡの採取、ビデオ撮影）を実施する。 ○研究者は、既に連結不可能匿名化された情報のみを用いる。また、調査研究終了後、撮影データなど個人が特定できる情報は消去する。	
	意　　見	対　　応
主 な 意 見 等	なし	

研　究　課　題	アデノウイルスの病原体サーベイランスの効果的な運用に関する研究	
事　業　期　間	H.22～24	
研究目的・内容	より効率的なアデノウイルス（AdV）検出同定法の導入のための検討を行なうとともに、これまで県内で検出されたAdVについてウイルスの解析を行い、その変異と流行との関連性を調査する。さらに得られた知見を感染研において集約することで、事前に流行を予測する手法を探る。	
期待される効果	○AdV レファレンスセンターが提示した「レファレンス法」を検証することで、現在の「感染研マニュアル法」の改訂に結び付ける。 ○検出の手法を確立し、県内の流行状況を把握しておくことで、病原体サーベイランスにおけるAdV検出や､施設などで集団発生が起こった場合の原因究明に役立つ。 ○変異株の出現と患者発生状況とに何らかの関連性が見いだせれば、変異を確認した時点で医療機関などにその情報を周知し注意を喚起することが可能になり､咽頭結膜熱や流行性角結膜炎の発生を抑えることができる。	
倫理的配慮事項	○医師が、研究の趣旨を説明し、同意書を得た上で、検体（鼻咽頭拭い液または鼻腔洗浄液）を採取する。 ○研究者は、既に連結不可能匿名化された情報のみを用いる	
	意　　見	対　　応
主 な 意 見 等	なし	